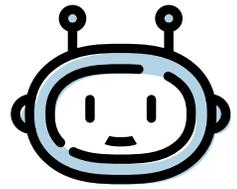
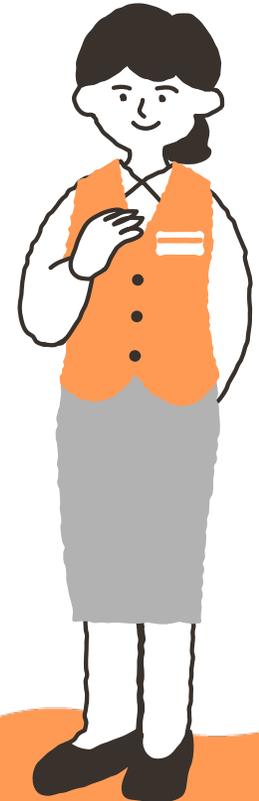
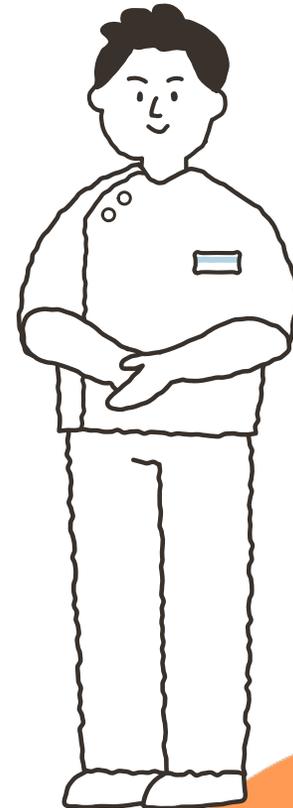
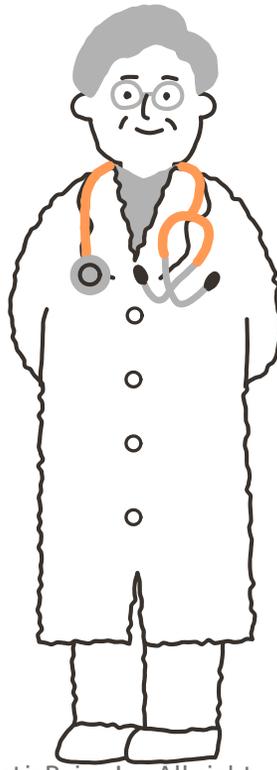
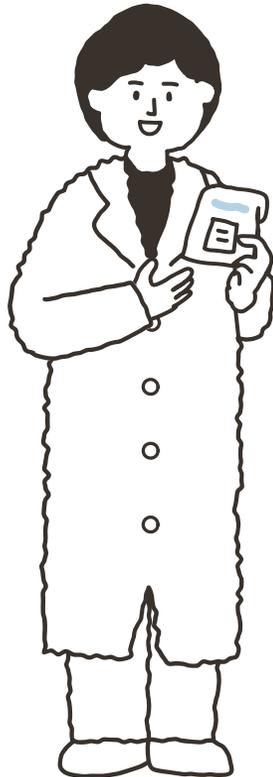


医療業界向け



RPAを利用したDX推進事例



Agenda

- 1.はじめに
- 2.医療業界における市場環境と課題
- 3.RPAの基礎知識
- 4.医療業界のRPA活用方法
- 5.RPA導入の成功事例
- 6.成功のポイント
- 7.まとめ
- 8.RoboTANGOのご紹介

はじめに

本資料を読むとわかる 3 つのこと

1

RPA導入で**解決できる課題**がわかる

2

RPA導入における**医療業界DX推進のポイント**がわかる

3

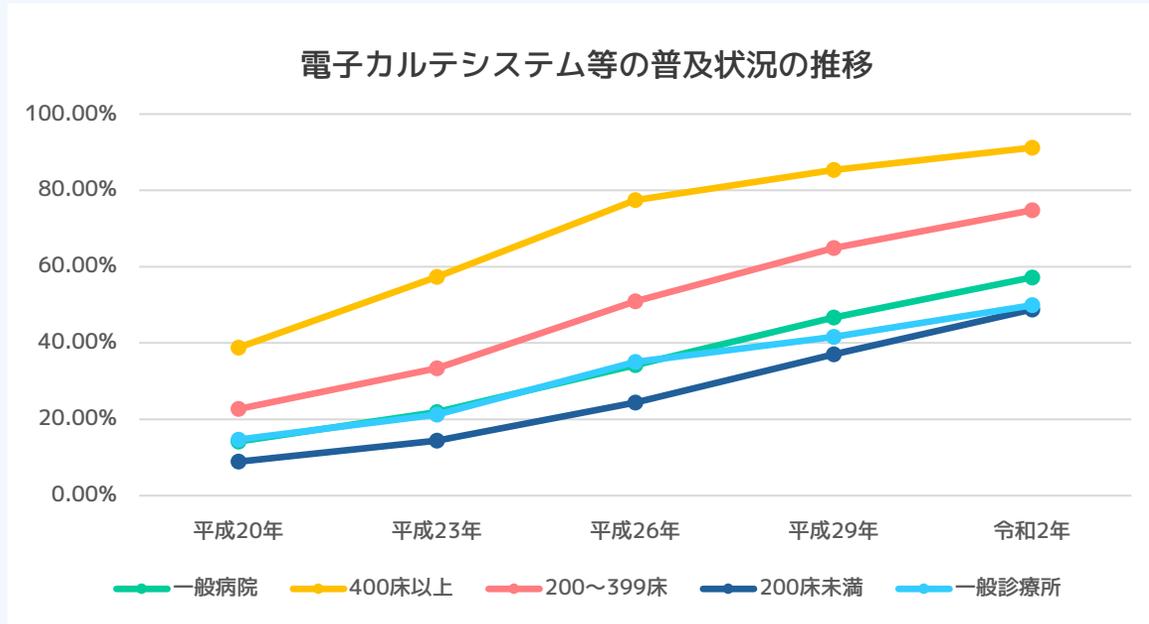
医療業界のDX推進事例がわかる

電子カルテシステムの普及

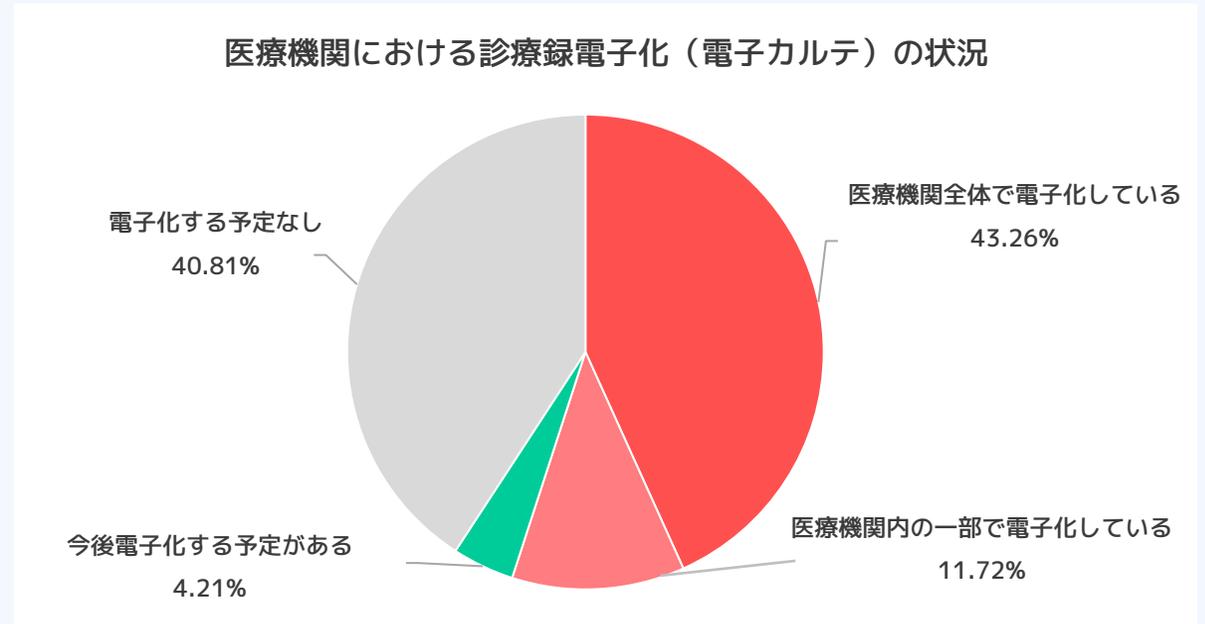
電子カルテの普及と共にパソコン作業が増加

厚生労働省の調査によると、2008年の調査開始以来、電子カルテシステムの普及率は年々増加し、令和2年時点では一般病院で57.2%、一般診療所で49.9%に達しています。また、令和5年の最新調査では、電子化していると答えた一般診療所が55%にのぼり、全体での普及率が54.9%となっています。

一方で、電子カルテの普及に伴い、パソコンによるデータ入力・画面操作などの業務が増加し、現場では「手書きの頃より時間がかかる」「業務が煩雑化している」といった声も出ています。



出典元：厚生労働省「[医療分野の情報化の推進について](#)」



出典元：政府統計の総合窓口(e-Stat)「[医療施設調査 / 令和5年医療施設（静態・動態）調査全国編](#)」

人的リソースの不足

人的リソースの限界と業務の逼迫

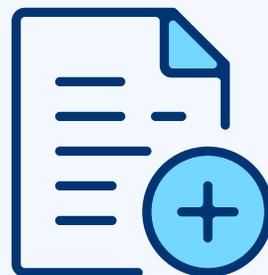
近年、少子高齢化や採用難の影響により、医療現場では人手不足が慢性化しています。診療や介護、お客様対応など本来注力すべき業務に加えて、電子カルテの入力・各種レポート出力・システムへのデータ入力・転記、分析業務といった事務作業も増加しており、限られたスタッフでこれらの業務をこなすことが求められています。特に中小規模の医療機関、主にクリニックでは情報システム担当がいなかったり兼任しているケースも多く、現場スタッフ自身が負担を抱えながら業務を回しているのが実情です。



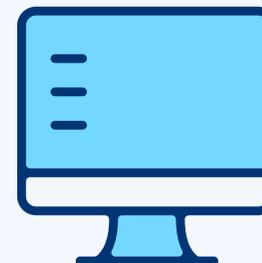
電子カルテ
移行



検査
レポート
出力



夜間診療
データ出力



システムへの
データ入力



データ分析

人材リソースの不安定さと運用課題

ICT人材の不足と業務の属人化によるリスク

近年、医療業界では電子カルテや各種システムの導入が進む一方で、ICT人材の確保が難しく、業務の標準化や運用のドキュメント化が進みにくい状況が続いており、特に中小規模の医療機関では人材の流動性が高く、担当者の退職や異動によって業務が停滞したり、引き継ぎが困難になったりすることが課題となっています。

また、人手によるデータ転記や手順の多い操作作業では、ミスや漏れが発生しやすく、患者情報を扱う医療業務においては重大な影響につながる恐れもあります。このような背景から、“誰が担当しても同じ品質で業務を遂行できる”仕組み化の重要性が高まっています。





繰り返し作業・属人化した業務こそ 「RPA」が効果を発揮する

「手順が決まっている業務」「人手に頼らざるを得ない業務」こそ、
RPAによる業務自動化の対象

そもそもRPAとは？

Robotic Process Automation

RPA = ロボットによる業務プロセスの自動化

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とは、「ロボットによるプロセスの自動化」を意味し、「定型的かつ反復的なパソコン業務を自動化できるソフトウェアロボット」のことを指します。

自動化したい作業手順をRPAロボットに記録しておけば、人が操作するのと同じ様に自動で実行してくれる仕組みになっています。

近年、多くの企業が「DX推進」に取り組みはじめており、人的リソースの削減や業務効率・生産性向上に寄与できるRPAは特に注目を浴びています。



×



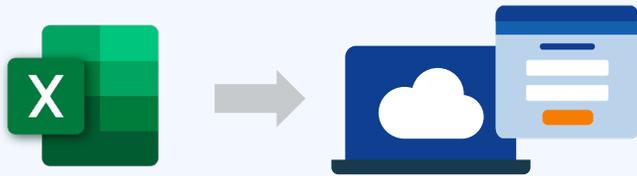
ロボットに毎月・毎週・毎日の「作業」をさせることで、人間はより知的でクリエイティブな「仕事」へ注力することが可能に。

RPAができること

組み合わせでパソコン業務を自動化できます

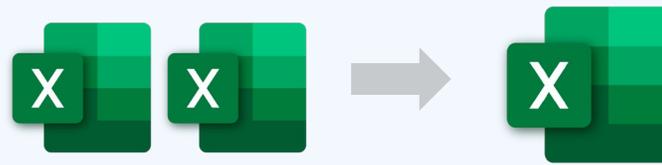
1. データ入力・転記

システムへの入力・転記やデータベースの更新など、繰り返し発生するデータ関連の作業を自動化。



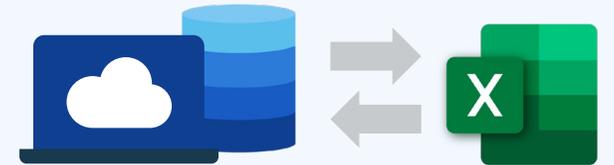
2. データ集計・加工

Excel内のデータを集計したり、複数のファイルを一つに取りまとめたり、加工・編集を行う。



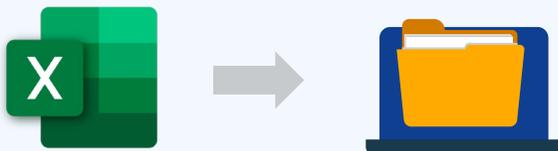
3. データ抽出・インポート

文書やシステムからデータやCSVを抽出し、必要な形式に変換したりインポートしたりすることができる。



4. ファイル操作

特定のデータをファイルに保存、またはファイルの作成、変更、削除などファイル関連の操作を自動化。



5. メール・チャットへの送信・通知

自動化の開始・終了を通知したり、作成したファイルをメールに添付し特定の宛先に送付したりできる。

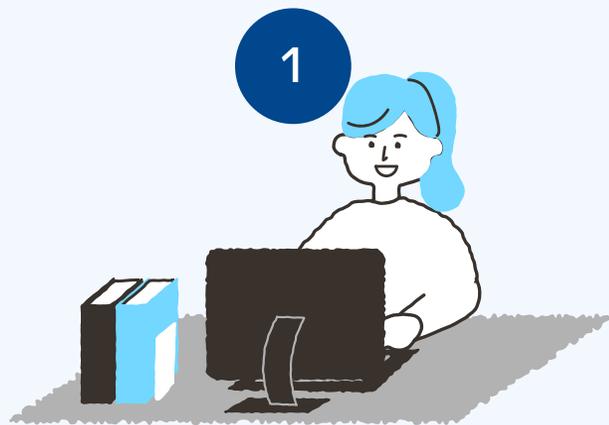


6. ウェブスクレイピング

ウェブサイト上の情報を抽出して処理をおこなうことが可能。

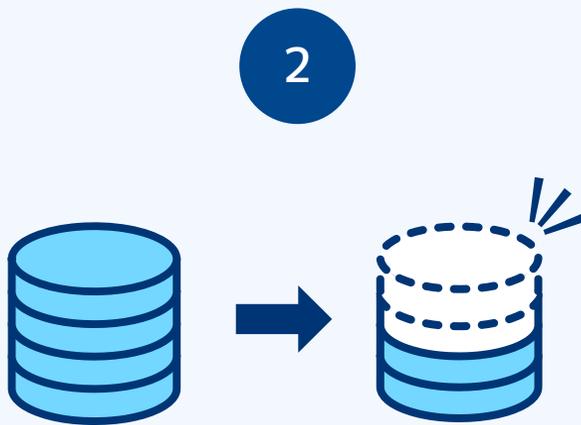


医療業界におけるRPA活用のメリット



日次・週次・月次で発生する 業務の自動化

例えば、クラウド型検査依頼報告システムから検査レポートを出力し、各クリニックの電子カルテシステムにデータをアップロードする作業もRPAで自動化できます。スケジュールを利用すれば時間になったら作業が始まるので、別の事をしていても、人が手を止めることなく自動化が可能です。



電子カルテの移行や入力による 人的コストの削減

古いサーバー型の電子カルテシステムから、新しいクラウド型の電子カルテシステムへの移行もRPAで自動化できます。1人の患者さんあたり10件~20件のデータがあっても問題ありません。また、電子カルテシステムへのデータ入力も、人の手で作業をするよりも早く正確に作業を行えます。

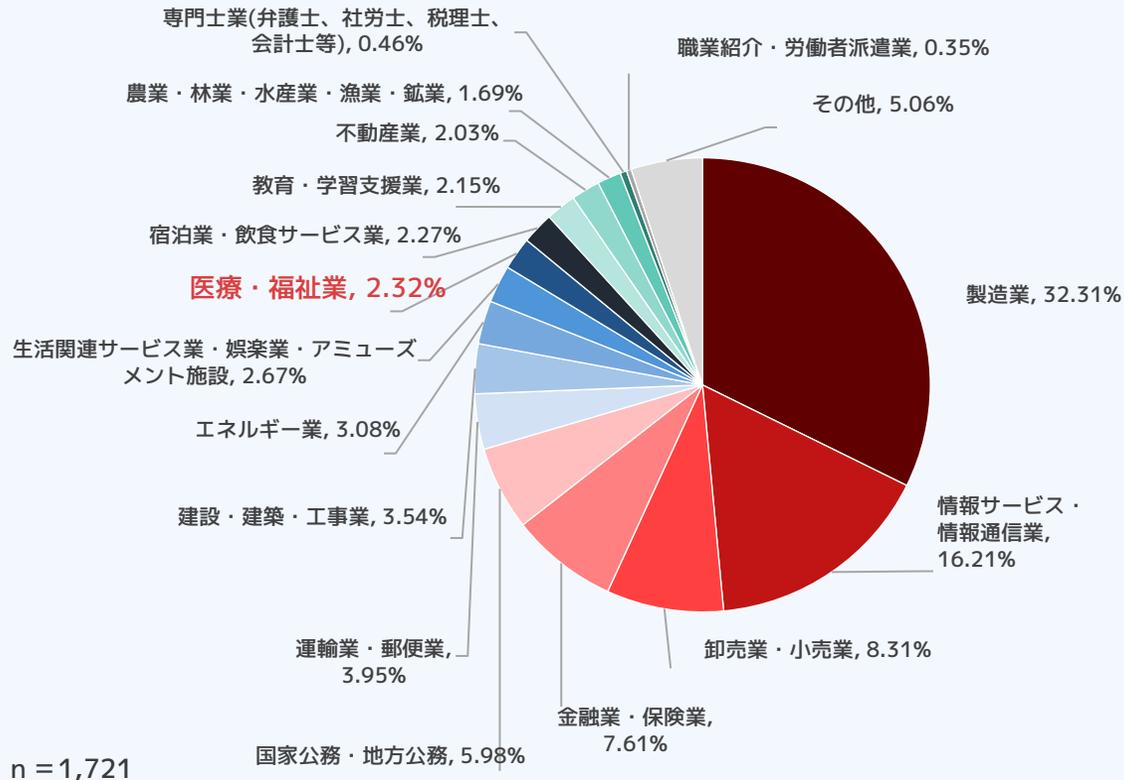


人的ミスや繰り返し業務による 精神負担の軽減

入力業務が多い医療現場では、人的ミスが発生しやすいうえに繰り返しの入力や確認作業に対するプレッシャーも大きく、担当者の精神的な負担も少なくありません。RPAによって単純な繰り返し業務を自動化することで、お客様対応など本来の業務により多くのリソースを割けるようになり、業務ストレスの軽減につながります。

医療・福祉業界へのRPAの導入率は2.32%

医療・福祉業界のRPA導入率は全体の2.32%と、依然として低い水準にとどまっています。しかし、電子カルテやオーダリングシステムなどの電子化が進んだ今こそ、次の段階としてRPAによる定型業務の自動化に着手するタイミングです。RPA導入企業全体では、「手作業の多さ」「ミスの発生」「人手不足」「属人化」といった課題が共通しており、これらはまさに医療機関が日常的に抱える問題と一致しています。実際、導入済み企業では、業務効率の向上・残業時間の削減・人手不足の緩和などの成果が得られており、医療現場においてもRPAの導入は、現場負担を軽減しつつ質の高い医療体制を支える有効な手段になり得ます。



RPA導入前の課題



RPA導入による成果・効果



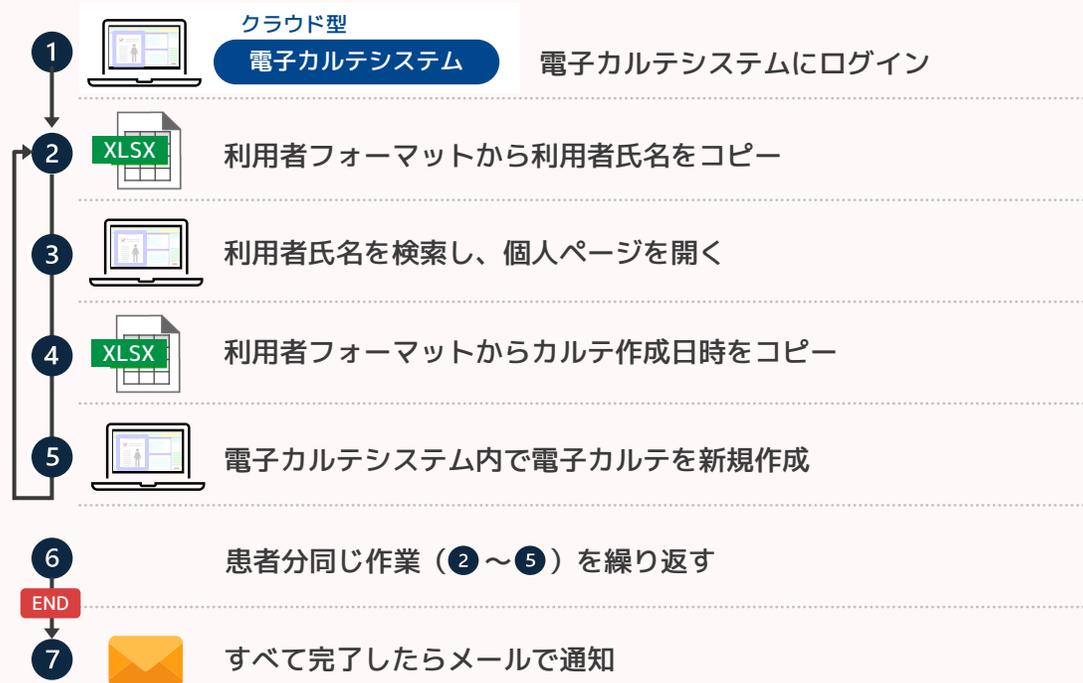
n = 507, 複数回答あり

※2024年12月自社調べ「【2024年度版】RPAツール導入に関するアンケート調査結果レポート」

日々発生する患者の電子カルテシステムの作成業務を自動化

当日の介護・看護利用者ごとの電子カルテデータを自動で作成する仕組みをRPAで実現できます。スプレッドシートやExcelの利用者データに記載された利用者名と訪問回数をもとに、1日に3回訪問があれば3回分のカルテをRPAで自動作成。RPAであらかじめ電子カルテに氏名や基本情報を反映しておくことで、現場スタッフはiPad上で注意点や体温などの記録だけに集中できるようになります。

RoboTANGOにて自動実行



導入前の課題

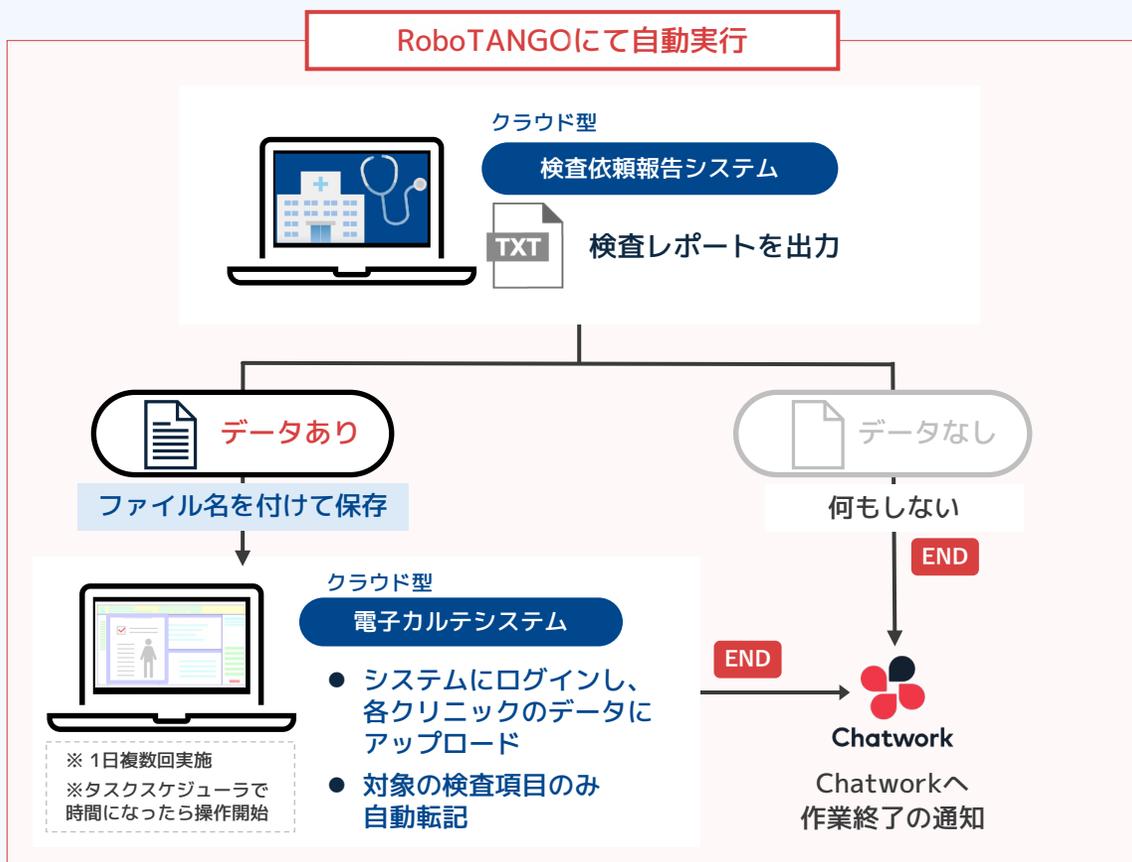
- 毎朝、訪問前に看護師が患者ごとの電子カルテを手作業で作成する必要があり、入力作業に時間と手間がかかっていた
- 手作業による入力ミスや情報漏れのリスクがあった

導入後の成果・効果

- 手入力の手間・ミスがなくなり、業務の正確性と開始スピードが向上
- 1日の準備作業が大幅に短縮され、スタッフの負担軽減とサービス品質の安定化に貢献し、現場では注意点などの記入に集中できるように

RPA導入で1日複数回実施される検査レポートの出力と検査項目の自動転記の業務自動化

血液検査や病理検査、細胞診断などの検体検査を外部委託している医療機関では、外部の検査システムから検査データをダウンロードし、院内の電子カルテシステムにインポートする作業が日次で複数回発生することもあります。RPAを活用すれば、検査データのダウンロード、必要な形式へのデータ加工、電子カルテシステムへのインポートまで一連の作業を自動化することができ、業務の正確性と効率性の両立が図れます。



導入前の課題

- 他のRPAで自動化していたが、ロボの修正が困難
- RPAの作成もメンテナンスも情シスのみ行える状況
- 1日8回作業が発生するので常に時間を気にする状態

導入後の成果・効果

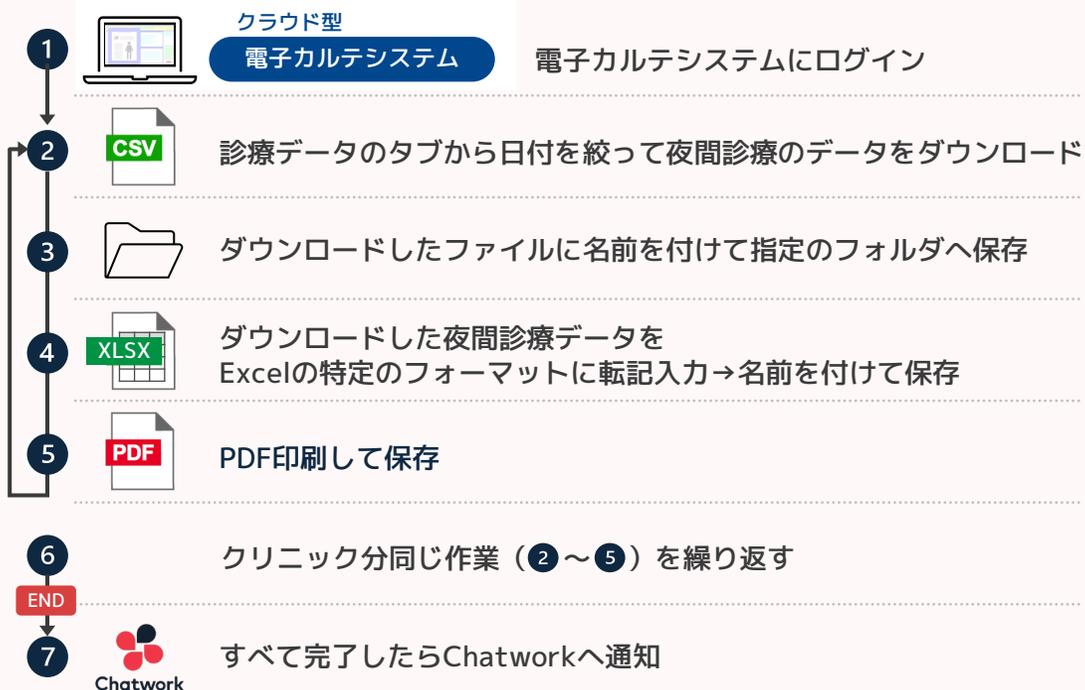
- RPAが現場主導で作成・メンテナンスもできる
- 指定した時間になったら作業が自動で開始
- 時間の縛りから解放され、精神的なストレスの軽減に

RPA導入でクリニックごとの夜間診療データのダウンロード & 転記入力の業務自動化に成功

毎日発生する夜間診療データの処理業務を、RPAで自動化することができます。

運営している各クリニックごとにデータをダウンロードし、担当医・症状・診断名・時間などの情報をExcelに転記、さらに印刷や通知までをロボットが実行することで、現場の負担を軽減しつつ、作業の正確性と時間の安定化が図れます。

RoboTANGOにて自動実行



導入前の課題

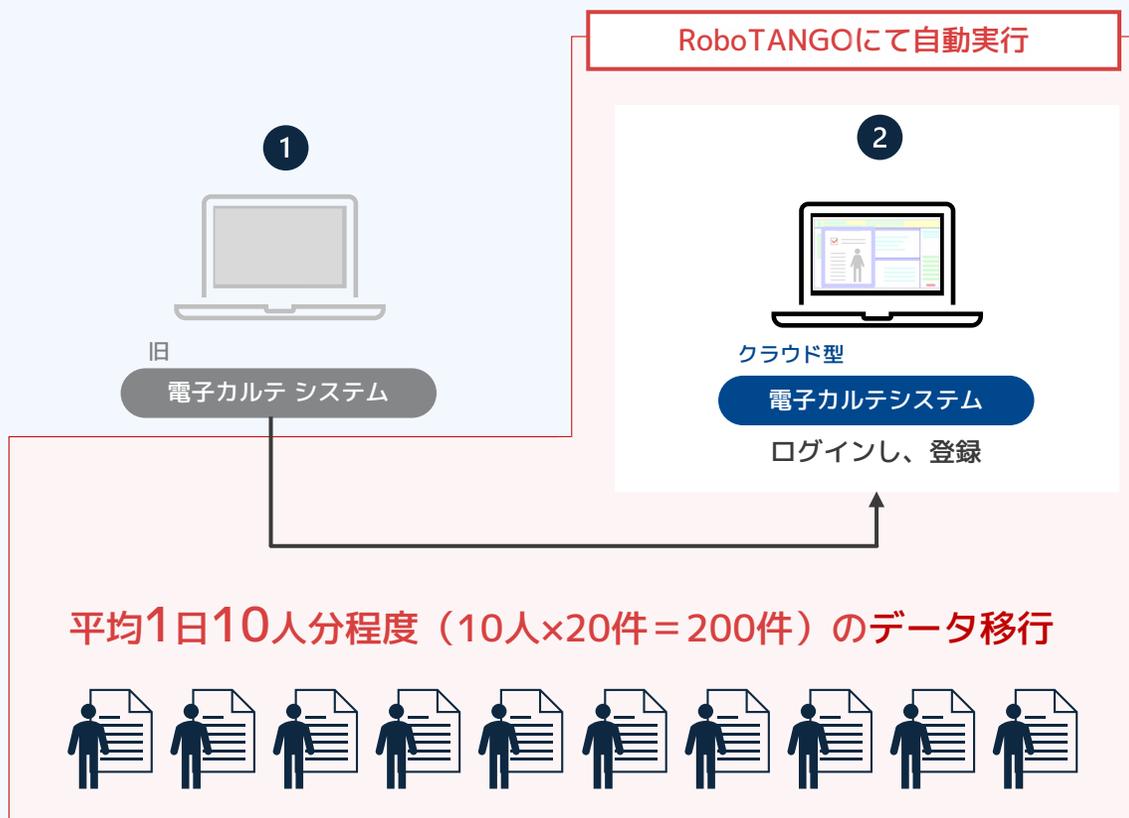
- 毎日必ず発生する業務で負担が大きい
- 作業の際クリニックごとにログインをし直すのが手間

導入後の成果・効果

- 作業完了の通知まで他の業務を行えるようになった
- Excelへの転記入力の作業に速さと正確性が増した
- 一連の作業にかかる時間が一定になった

RPA導入で1日200件の電子カルテデータ移行自動化に成功

旧電子カルテから新しいクラウド型電子カルテへの大量データ移行も、RPAによって自動化が可能です。手作業での移行にかかる膨大な時間や、外部委託による高額な費用をかけずに、日々の業務と並行して効率的に移行作業を進めることができます。



導入前の課題

- 旧電子カルテがサーバー型でWindows7対応
- クラウド型の電子カルテへの移行が必須課題
- 約8万件と膨大な量のデータの移行が必要

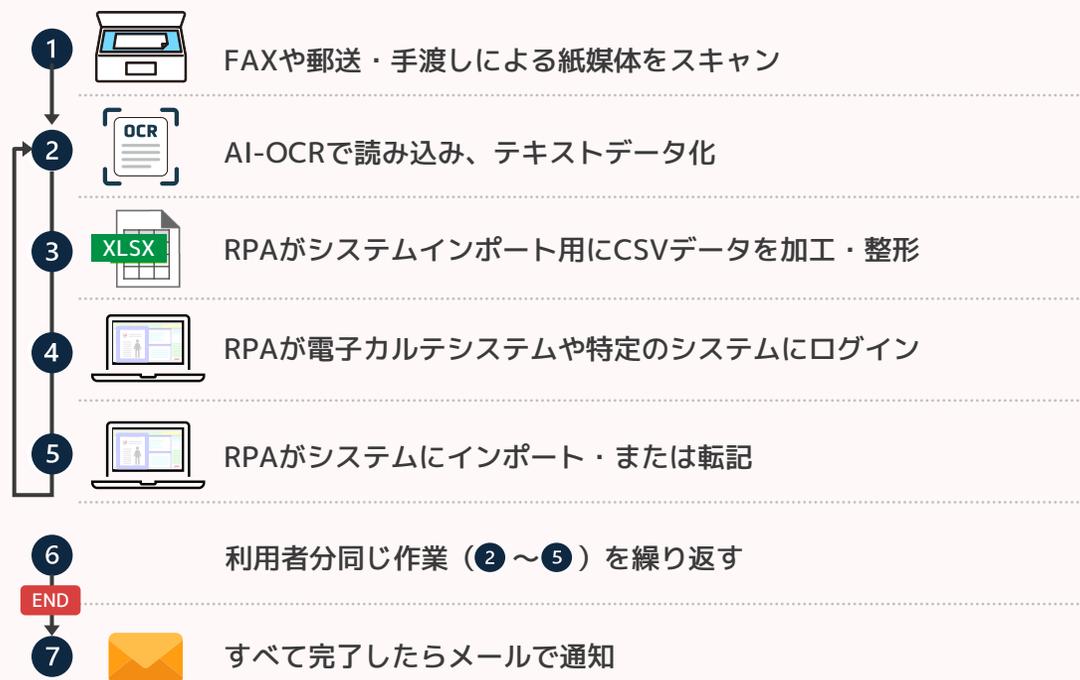
導入後の成果・効果

- 平均1日200件程度のデータ移行が自動化
- 費用面・リソース面の両方で抑えられた
- 今後はあらゆる部署の業務改善や課題解決に活用予定

医療保険証や口座振替情報など紙媒体の電子化と電子カルテへの登録業務を自動化

医療機関では、保険証や口座情報、申請書類など、いまだ紙で扱われる情報が多く存在します。こうした紙媒体の情報をAI-OCRで読み取りテキストデータ化し、RPAによって電子カルテや各種システムへ登録する作業を自動化することで、入力作業の手間や漏れや入力間違いなどの人的ミスが減らし、現場の負担を大幅に軽減することができます。

RoboTANGOにて自動実行



導入前の課題

- 医療保険証や口座振替依頼書など、紙の情報入力が多い
- 手入力による作業負荷と入力ミスのリスクが高い
- システム登録に手間と時間がかかっていた

導入後の成果・効果

- AI-OCRでスキャン後の確認作業だけで完了
- RPAで入力ミスを防ぎ、入力作業時間も大幅に短縮
- 自動化によって創出できた時間を他の業務に充てられるようになった

その他：医療業界で自動化できる業務例

その他、医療機関にて自動化できる業務は様々です。看護師から医事課、経理、人事など定型的な業務を自動化することが可能です。「自院のこの作業でも使えるかな？」といったご相談があれば、ぜひお気軽にお声がけください。

予約情報のシステム入力	診療計画書や指導計画書のひな形作成	診療報酬のレセプト点検業務	入退院患者リストの作成・更新
ワクチン接種の登録作業	定期健康診断の結果取りまとめ	各種同意書の電子化・転記	紹介患者の事前情報入力
紹介状・返書などの文書テンプレート入力	外来患者への来院リマインドメール配信	医療機関におけるデータの分析	支払情報の突合・確認作業の自動化
スタッフ入社時の各種システム登録作業	勤怠・シフトデータの整理と取りまとめ	支払予定一覧の作成と経費振込処理の自動化	電子カルテシステムと会計ソフトの連携

医療法人社団平郁会様

手書き書類や電子カルテの処理業務にAI-OCRとRPAを活用し、 年間1,800時間の作業工数を削減。医療DX推進を実現

首都圏を中心に17の在宅診療・外来診療のクリニックを展開する医療法人社団平郁会様（以下同会）。同会では他製品のRPAを活用していたものの、ロボの構築・運用は外部に委託していました。しかし保守契約を結んでいた委託先がサービスをクローズすることになり自社で扱えるRPAを求め、「RoboTANGO」を導入。さらに電子カルテの処理業務の効率化を目指しAI-OCR「DX Suite」も合わせて導入し、電子カルテ業務のデジタル化を推進。手作業の多くを自動化させ年間で約1,800時間の作業時間削減により大幅な効率化を実現しました。

BEFORE

- RPAロボットのメンテナンスの度に外注先に依頼をしなければならなかった
- RPAロボットの作成・保守を依頼していた外注先が保守サービスをクローズすることになった
- 元々利用していたRPAでは操作が難しかった

AFTER

- 簡単な操作性でRPAロボットの完全内製化を実現
- AI-OCRによりカスタマーサポート業務の効率化が実現した
- 定型業務を自動化したことで、年間1,800時間の作業時間が削減された

AI-OCR×RPAで大幅な効率化を実現

1. 検査データの出力と電子カルテシステムへのアップロード作業：月間20時間の削減
2. 患者から届く紙文書での請求先情報の入力作業：月間25時間の削減
3. 従業員の入退社処理：月間10時間の削減
4. 入金情報と収納情報の突合・消込作業：月間36時間の削減
5. 分析用に全患者の処方情報を抽出：月間55時間の削減

RPA導入による成果物

1. 電子カルテ周りの業務を自動化したことで年間1,800時間の作業工数を削減
2. 入金の突合作業自動化や紙媒体の文字データ化で医事科やCSなど幅広い部門で業務の効率化を実現
3. 従業員の精神的負担軽減
4. 患者の処方箋データの分析など、今まで出来なかった業務ができるようになった
5. 定型業務を自動化したことで、できる業務の枠が広がり、従業員満足度が向上

医療法人社団 創福会 ふくろうクリニック等々力様

電子カルテシステムの変更による膨大なデータ移行の費用・リソースを圧縮 将来は医療業界のDX化をRoboTANGOで実現したい

訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所と全部で4つの施設、2拠点でクリニックを運営している医療法人社団 創福会では、4,000人強の患者様の約8万件のデータ移行が必要課題でした。

ITツール使用の必要性からRPAの導入を検討、RoboTANGOのわかりやすいレクチャーとリーズナブルさから、導入を決定。導入後は、当初の課題であったデータ移行が順調に進み、費用面・リソース面の両方で抑えられたとのことです。

BEFORE

- 膨大な患者データの移行作業が必須
- サーバー型の古いOSでの作業が必要
- 担当者を配属しても定着まで時間がかかる

AFTER

- 膨大なデータの移行作業をRPAで自動化
- 新たな人員の確保が不要
- RPAの導入コストがリーズナブルで経費削減

RPAで大幅なコスト削減と効率化を実現

1. 4,000人強の患者様のデータ移行（一人当たり20件程度の診療録、4,000人×20件＝8万件と膨大な量）が必要だった：RPAにより毎日日中だけで10人分の電子カルテシステム移行の自動化に成功
2. 専属の担当者を配置しても1年単位くらいで作業してやっと完了する程度のボリュームだった：RPAにより、費用面・リソース面の両方で抑えられた

RPA導入による成果物

1. 平日日中の時間だけで10人分のカルテデータ移行が実現
2. 人的リソースを割いたり人員増加したりせずに済みコスト削減につながった
3. 何が必要か無駄かを考えることができるようになり、業務の見える化につながった
4. 社員それぞれの業務内容や残業の偏りなどの発見ができるようになり、課題解決につながられた

RPA導入における成功のポイントは？

RPAは導入すればすぐに効果が出るわけではなく、現場に合った運用の仕方が重要です。
スモールスタートから始めて現場に根づかせるための「成功のポイント」を3つに絞ってご紹介します。



全てをRPAで自動化 しようとしな

業務全体の1~10のうち、はじめから全てを自動化しようとするのではなく、まずは3~8だけを自動化する、あるいは1~5だけを対象にするなど、一部から始める“スモールスタート”が成功の鍵です。小さな成功を積み重ねることで、段階的に自動化の範囲を広げていけます。



導入は現場主導で進め、 運用と保守も見据える

自動化する業務を決める際には、RPAロボットを作成する人だけでなく、実際にその業務を行う現場担当者と一緒に進めることが重要です。現場と認識をそろえることで、導入後の修正やメンテナンスもスムーズになり、無理なく現場に定着します。



業務を“作業”ではなく、 “一連の操作”として分解する

たとえば「レポートを作成する」という作業も、「ファイルを開く」「ID/PASSを入力する」「ボタンをクリックする」など、一つひとつの“操作”に分けて考えると、自動化の設計がしやすくなります。RPAでは、“人がやっている手順通りにパソコンを動かす”ことが基本です。

よくある失敗例は？

PAはうまく活用できれば大きな効果を生みますが、導入の仕方を誤ると、定着せずに終わってしまうケースも少なくありません。実際によくある失敗パターンを3つに整理し、避けるべき落とし穴をご紹介します。

よくある失敗 1

ロボを作成できる人が
限られてしまっている

- プログラミングができる人にロボ作成を丸投げしてしまった
- 業務を十分に把握していない担当者が作ったため、ロボ作成時やメンテナンス時に対応できず業務がとまる
- 「とにかく早く導入する」ことが目的化してしまい、継続性のある体制が作れなかった

よくある失敗 2

RPAが社内で横展開できない

- 一部の部署でひっそり導入し共有もしていなかったため、他部門に展開できずに終わってしまった
- ロボ化させたい業務を募集した際、選定基準が不明確だったため、自動化が難しい業務ばかりが集まった
- 属人化を避けるためにも、複数人の体制で導入・運用する仕組みが必要だった

よくある失敗 3

費用対効果が測れない

- 自動化する前後の工数やコストを記録していなかったため、効果が測れなかった
- 自動化に適した業務を見極められず、成果が出ないまま終了してしまった
- 利用状況や削減時間を管理・可視化する仕組みを事前に整えておくべきだった

RPAツール選定のチェックポイントは？

No.	チェックポイント	注意事項
1	OSやブラウザは対応しているか？	利用しているパソコンのOS・ブラウザと互換性があるか確認しましょう
2	インターネットがクローズではないか？	医療業界の場合、インターネット環境がクローズの場合が多いです
3	クローズの場合、ポート開放ができるか？	クローズでもポート開放ができればRPAは動作する可能性が高いです
4	独自システムをRPAで動かせるか？	無料トライアルなどで、独自システムが動かせるか確認をしましょう
5	現場主導で使いこなせるか？	RPAは慣れです。現場で業務を行う方が触れるものを選びましょう
6	サポートは充実しているか？	RPAツールを導入した方たちが最も重視していたポイントです
7	国産のツールか？	海外製品の場合、サポートが英語になってしまうこともあります
8	複数人で利用できるツールか？	組織で横展開する際に追加のライセンスが必要になる場合があります
9	価格は妥当か？	自動化予定の業務と削減予定時間を計算して金額が妥当か判断しましょう
10	ツール導入後に追加費用が発生しないか	導入後の運用まで考慮し、追加の費用がかからないか確認しましょう

導入の流れ：トライアルを利用し、運用できそうか担当者が使えそうか必ず検証しましょう

RPAを導入・運用するまでの一般的なステップは主に5つです。RPAを比較検討される際は下記のフローに沿って進めることをお勧めします。



オンラインまたは対面でのお打ち合わせを実施し、業務課題や現在の業務フローをヒアリングいたします。

ヒアリング内容をもとに、貴院の業務内容やシステム構成に合わせた自動化の方法をご提案いたします。

実際の業務をベースにロボット作成を行い、操作性や現場での適合性を検証します。トライアル期間中は弊社にてRPA作成フォローの支援も行います。

いきなり全体導入せず、影響の少ない業務からスモールスタートで導入。併せて効果測定も行いましょう。

成果をもとに自動化対象を広げていくことで、段階的なスケールアップが可能です。

導入前も導入後も手厚いサポートで、安心

医療機関における業務効率化・自動化で得られる成果・ベネフィット

01

業務効率化による生産性向上

02

ヒューマンエラー削減による精度向上

03

残業時間やリソース・採用のコスト削減

04

創出できた時間で価値の高い業務に取り組める

05

患者ケアのサービスの質の向上

06

従業員満足度の向上

まずは簡単な業務で自動化を試してみてください

まずは触ってみるコトが大事！ トライアルで業務を自動化してみよう

- 慣れれば簡単！「難しそう」という意識をまず払しょくし、まず触ってみよう
- どれだけ作業時間が削減できそうか確認しよう（＝費用対効果を確認する）

江口電機様からのメッセージ

トライアル利用時に、RPAの使い方やロボットの組み立て方を教えていただけますし、最初知識に差があったとしてもきちんとサポートしていただける体制があるため、これから新たにRPAを導入していく方にRoboTANGOはおすすめです。きちんと勉強していくと色々応用的に使える機能もあり、組み合わせると複雑な処理も自動化できるので網羅的に活用できるツールだと感じています。

サインポスト株式会社様からのメッセージ

経営者の皆様は人手不足に頭を悩ませているケースが多いと思いますが、まずはRPAを活用して業務を効率化し、従業員の方々がより価値を生む仕事にシフトできる環境を整えるのが重要だと感じています。その第一歩として、RPAで空き時間を作るところから始めるのが良いのではないのでしょうか。人手不足の解決策としても、RPAは非常に有効だと感じています。

日本旅行様からのメッセージ

今までやりたいと思っていても、忙しくてできずに諦めていた業務がたくさんあったと思います。手作業で行う業務はすごい達成感があって、やりきったという気持ちになりますが、そういった意識を変えて、RPAに代わりにやらせてもらおうという風に切り替えることで、時間を有効活用できるようになり、自分たちが本当にやりたいと思っていた仕事に取り組めるようになります。

平都会様からのメッセージ

IT知識がない方でも、セミナーなどもあわせて受講すれば、RoboTANGOならすぐに使いこなせると思いますので、積極的に導入検討されることをおすすめします。また、もし手書きの書類からの転記作業などがあればAI-OCRとの連携も上手くいくと思いますので検討してみるのも良いと思います。

RPAに「作業」を任せることで、人は本来の業務に集中できる

RPAは担当者の「信頼できるパートナー」

RPAは単なる効率化ツールではなく、担当者の“作業負担”を引き受け、業務に集中できる環境をつくる頼れる存在です。

組織としても、RPAを「パートナー」として位置づけ、共に働く仲間のように活用していくことで、生産性向上・ミス削減・リソース不足の解消・従業員満足度向上など、業務全体にポジティブな循環を生み出すことができます。

生産性向上

ミスの削減

リソース不足解消

従業員の満足度向上

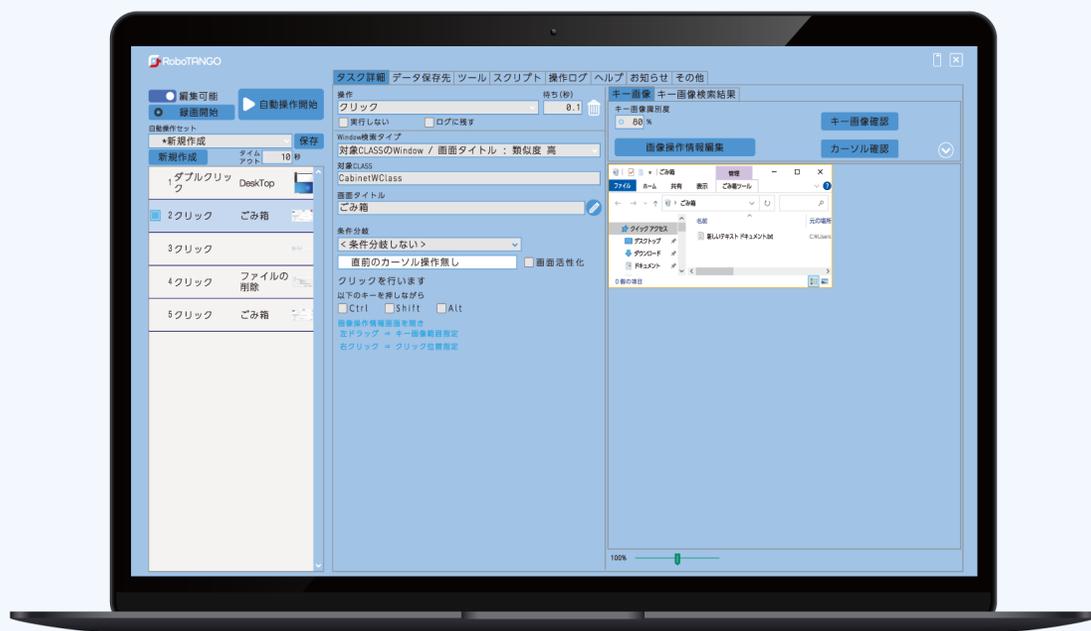


まとめ

医療DXに関するお悩みを解決します

スターティアレイズでは、医療業界DXを推進するRPA/iPaaS/AI-OCR/BPSなど、
お客様の課題に応じた業務効率化ソリューションを提供しております。

導入に関するご相談・ご質問がある方はRoboTANGOサイトまたはお電話にてお気軽にお問い合わせください。



3週間無料トライアル&操作レクチャー実施中！
ぜひお試しください

[RoboTANGOサイトを詳しく見る](#)

フリーダイヤル：0120-277-031

営業受付時間 9:00～18:00 (土日・祝祭日除く)

RoboTANGOとは

ロボタンゴ

RoboTANGO は、誰でも簡単に作成・運用できる国産RPAソフト

ロボタンゴは現場フレンドリーなデスクトップ型RPAだから初めてでも安心！低価格でスモールスタートが可能

フローティングライセンス

録画で簡単作成

オンプレミス

最短利用期間1ヵ月

初心者から使える

無料トライアル

複数ユーザーで使える！

無料
トライアル
受付中

3週間お試し無料

中小企業への



※1) 2023年9月末時点の導入実績

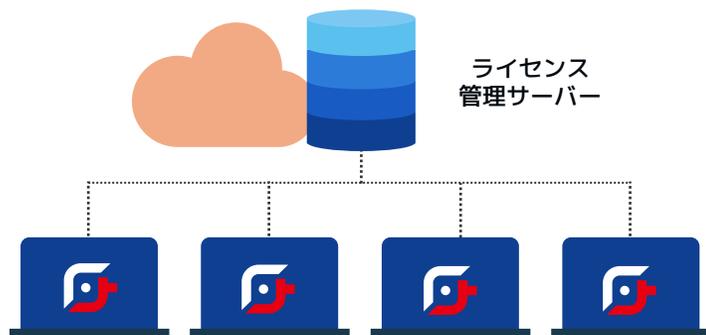
※2) サービスの最低利用期間での解約率0.7% (2022年9月末時点)



RoboTANGOの特長

FEATURE 01

フローティングライセンス 標準提供



- 1つのライセンスを、複数のPC端末でご利用可能
- 複数のPC・部門・拠点をまたいだ利用ができる
- RPAロボットの作成数や実行回数制限なし
- ロボ作成や運用に関わるコストダウンを実現

FEATURE 02

録画機能+ ボタン で簡単記録



- 画面上の操作をそのまま録画することができる録画機能を活用して、短時間でスムーズにRPAロボットが作成可能
- プログラミングの知識や技術が不要

FEATURE 03

低価格で短期間利用できるから スモールスタートが可能



- 低価格で最短利用期間1ヵ月での利用が可能
- 繁忙期や閑散期に合わせてライセンス数の調整が可能

RoboTANGOはサポート体制も充実

導入前から導入後まで**手厚いサポート体制**



RPA化検討業務ヒアリング、
導入目的の確認

業務ヒアリングおよび RPA化可否判断（無償）

- RPA化対象の業務の集め方
- 導入の目的やゴールの決定
- 社内の情報周知のためのデモ会の実施
- トライアルでロボ作成を実施する業務選定

どの業務を自動化させるのか、ロボ作成しやすい業務なのか、導入前のお手伝いをさせていただきます



トライアルライセンス提供、
RPA操作勉強会を実施

RoboTANGO操作勉強会（無償）、 導入支援サポート（有償）

トライアルライセンス提供中のお客様に対して**無償での操作勉強会（オンライン）**を実施させていただきます

また、早期にRPAを利用・定着させたいお客様向けに有償の導入支援メニューもございます



ロボ作成をサポート

RoboTANGOヘルプセンター （ライセンス費用に含むサポート）

お客様専用のサポートサイトをご用意しております

操作でわからないことがあれば、サイト内で検索して調べたり、お問い合わせさせていただく事で、ロボ作成・運用をサポートさせていただきます

ご利用料金について

基本プラン

初期費用

10万円

月額費用

5万円

お客様専用サポートサイト（ヘルプデスク）

受付時間：平日 9時～17時（土日祝日除く）

- 表示価格は全て税抜価格となっております
- お支払い方法：WEB請求書発行 口座引落（月末締め翌々5日引落）or 銀行振込
- ご契約は1ヶ月単位、以降1ヶ月自動更新となります
- 月の途中で契約が開始又は終了した場合においても、月額で課金される費用は日割計算によらないものとし満額課金とします
- ライセンスはお申し込み後、5営業日以降に発行させていただきます
- 2025年6月1日利用分から、月額65,000円に価格改定いたします。

お問い合わせ先

RPAや業務自動化、効率化に関するお問い合わせはこちらから

お電話でのお問い合わせ先

 **0120-277-031**

営業受付時間 9:00~18:00 (土日・祝祭日除く)

お問い合わせフォーム



[お問い合わせフォーム](#)

メールでのお問い合わせ先



Mail:info@reiworq.com

会社概要

商号	スターティアレイズ株式会社 スターティアホールディングスグループ 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393）
本社所在地	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階
設立	2017年11月10日（営業開始日：2018年4月2日）
代表者	代表取締役社長 鈴木 健太
資本金	9,000万円
代表電話番号	03-6316-1488
事業内容	バックオフィスDX支援事業

ISMS 認証

スターティアグループは ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の国際規格「ISO/IEC27001」並びに国内規格「JIS Q 27001」の要求事項に適合していることを証されています。



PMS 認証

スターティアグループは PMS（個人情報保護マネジメントシステム）の国内規格「JIS Q 15001」の要求事項に適合していることを証されています。



グループ概要

	商号	スターティアホールディングス株式会社	   
	本社所在地	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階	
	設立	1996年2月21日	
	代表者	本郷 秀之	
	資本金	824,315千円	
	上場取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393）	
			  



働き方の選択肢を増やす

事業領域

労働力不足という社会課題に対して
仕事の効率を上げる、
「簡単、便利、安心」なサービスを提供。

本資料の掲載内容（画像、文章等）について

本資料の掲載内容（画像、文章等）の一部及び全てについて、
スターティアレイズ株式会社への事前の許諾なく、
複製、転載、転用、改変等の二次利用を固く禁じます。

